

海外安全対策情報（ポルトガル・2025年4月～6月）

1 治安情勢等及び邦人被害の状況

（1） 治安情勢等

ア 2024年の犯罪発生状況

2024年の一般犯罪認知件数は、354,878件で、前年比4.6%（17,117件）減少したが、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年と比較すると5.7%増加しました。

凶悪重大犯罪の認知件数は14,385件で、犯罪全体に占める割合は3.9%です。前年比では2.6%増加しましたが、2019年と比較すると0.1%減少しました。

2024年中の凶悪犯罪の中では、特に路上強盗及びひったくりが最も多くを占めています。

増加傾向が目立った犯罪としては、ひったくりが前年比8.7%増（174件）、強姦が前年比9.9%増（49件）、住居における強盗が10.9%増（49件）、商業施設等における強盗が21.7%増（80件）、乗物盗が前年比106.3%増（134件）、銀行等における強盗が128.6%増（18件）となっています。

イ 大規模停電の発生

4月28日午前11時30分頃、ポルトガル全土において大規模な停電が発生し、電話回線やインターネット、鉄道や地下鉄、空港が大きな影響を受けました。同日午後7時頃から段階的に復旧が始まり、午後11時頃には都市圏の大部分で電力と通信網が復旧しました。

ウ その他犯罪発生状況

（ア） 侵入盗の傾向について

2024年中、約16,000世帯を標的とした住居に侵入する窃盗及び強盗が発生し、1日平均44件を記録しました。PSPリスボン首都圏本部によると、2025年1月及び2月の間に82件の侵入盗が発生しています。さらに同本部はこれらの侵入盗の特徴として、犯行グループは東欧諸国出身者3～4人で構成されていること、一人暮らしや高齢者の住居を標的としていること、さらに12時から15時の間に犯行が行われているとして注意喚起を行っています。なお、ポルト市内在住の邦人宅も被害にあっています。日頃から、華美な服装や目立った行動等で近所やビルの管理人に覚えられたりしないよう、短期間の外出であってもドアの施錠をする等、注意してください。

（イ） スキミング被害について

5月、司法警察庁（PJ）は、カード情報を不正に入手して約45万ユーロを得ていたグループを摘発し、21歳から54歳までの10名を逮捕しました。スキミングの手口としては、ATMに小型カメラや磁気の読取機などを設置し、カードデータを不正に入手していたものとみられます。不正に得られた資金はその後マネーロンダリングを通じて他国に流れた模様です。

（ウ） リモートワークに関する詐欺について

6月、ポルトガル共和国検察庁はリモートワークに関する詐欺に対する注意喚起を発出しました。同庁によると、自動応答の電話、ワッツアップ及びテレグラムなどのメッセージアプリを経由したリモートワークの勧誘を装った詐欺が増えているとのこと。

犯行手口としては、犯人グループから少額の資金を被害者に送金し、それを被害者からMBウェイなどで別の口座に送金したり、宿泊予約サイトに口コミ投稿をすることで10ユーロ程度の報酬を受け取ります。そこから更に、高収入を得る仕事があると被害者を勧誘して事前に資金の立て替えを要求し、そのまま報酬を支払わないといった手口となっています。若年層や失業者などが被害に遭っています。

(2) 邦人被害

2025年4月から6月の間、大使館に届出があった邦人の犯罪被害件数は9件（すり被害）でした。

注意いただきたいエリアとしては、リスボン市内であればロシオ広場、アルファマ地区、バイホ・アルト地区、ベレン地区、さらにオビドス市、シントラ市（ロカ岬）及びポルト市など人出の多い観光地です。バックパックやショルダーバッグのファスナーを開けられ、貴重品を抜き取られています。人の多い場所では、歩いていても鞆は正面で持つなど盗難対策をしましょう。また、リスボン市バイシャ地区で3月に発生した強盗については、午後7時頃、一人で同地区の路地を歩行中に男女に話しかけられ、羽交い締めにされた上で鞆を盗まれるという事案でした。ポルトガルは、比較的治安の良い国ですが、注意を怠らないよう気をつけてください。

路上や観光スポットはもちろん、レストランやホテルのロビーにも窃盗グループが常駐し、犯行の機会を窺っています。食事の際、路上演奏を聴く際、写真を撮影する際、チケットを購入する際などには、手荷物を常に視界に入れて、被害に遭わないよう気をつけて下さい。

ア 4月 すり3件

イ 5月 すり2件

ウ 6月 すり4件

※ ご旅行に際しては、在ポルトガル大使館作成「[安全の手引き](#)」をご覧ください、外務省海外安全情報配信サービス「[たびレジ](#)」への登録もお願いします。

2 報道された犯罪

(1) 殺人

ア 5月23日夜、ヴィアナ・ド・カステロ市内で同じ道路で路上生活をしていた30代と40代の男性2名が口論となり、被害者の40代男性がハサミで腹部などを刺され、重体となり病院に搬送され死亡が確認されました。

イ 5月4日午前5時過ぎ、ポルト市セドフェ地区にある飲食店の前で複数名による乱闘となり、20代男性が胸などを撃たれて死亡しました。薬物が絡むトラブルとして警察が捜査しています。

(2) 強盗

ア アヴェイロ市内サンティアゴ地区で大学生を狙った強盗事件が2月頃から頻発していましたが、PSPアヴェイロ警察署は、16歳と24歳の男2名を5月に逮捕しました。

イ 5月10日、リスボン市マルティン・モニス地区で、ギニア国籍の20代男がATMで現金を引き出していたドイツ人男性のリュックを強奪して逃走しました。

ウ 5月11日午前零時過ぎ、リスボン市内マルティン・モニス地区で、ドイツ人観光客が35歳のアルジェリア国籍の男に鞆をひたかれ、被害者は犯人を追いかけてようとして転倒し、軽傷を負いました。

エ 6月21日午前3時半頃、ヴィラ・ノヴァ・デ・ファマリカン市内の住宅に散弾銃を持った3人組が押し入り、就寝中だった65歳の男性を脅し、現金や貴金属を奪って逃走しました。

オ 6月28日、リスボン市内リベルダーデ通り25歳のモロッコ人の男が20万ユーロ相当の高級腕時計を奪い逃走しました。犯人は警察に逮捕され、不法滞在者であることが判明しました。

(3) すり

ア 6月11日午後1時頃、リスボン市アロイオス地区で、ドイツ人観光客のポシェットから金品を盗んだ21歳から45歳までの4人組が逮捕されました。

イ 5月6日、リスボン市バイシャ地区でイタリア人観光客から財布を盗んだ容疑で40代東欧諸国出身の男性2名が逮捕されました。

(4) その他

ア 4月5日午前2時頃、コインブラ市サン・マルティーニョ・ド・ビスポ地区で帰宅途中の20代女性が乗用車に連れ込まれて暴行されました。

イ 5月11日午後8時頃、ロウレス市サント・アントニオ・ドス・カヴァレイロス・エ・フリエラス地区で1台の乗用車が路線バスの前に停車し、同車両運転手が路線バスに向かって拳銃を5発発射し、逮捕されました。交通トラブルが発砲の原因とみられているとのことです。

ウ 5月27日、ポルト市サント・イルデフォンソ地区バターリャ広場でアルジェリア人十数名が乱闘となり、20代男性が太ももなどをナイフで刺されました。

エ 6月26日、リスボン市アルカンタラ地区にある民泊施設に合鍵を使って侵入し、金品を盗んでいた41歳の男が逮捕されました。少なくとも4件の窃盗事件の犯人とみられています。

オ 6月29日夜、カスカイス市カルカベロス海岸沿いにあるレストランGRANDE ONDAで男性が拳銃を発砲して逃走し、従業員が軽傷を負いました。

3 テロ・爆弾事件発生状況
ありません。

4 誘拐事件発生状況
外国人を標的とした政治目的、身代金目的等誘拐事件の把握はありません。

5 対日感情
良好です。

6 日本企業の安全に関する諸問題
外国籍（日本資本を含む）企業が、犯罪に巻き込まれた情報の把握はありません。